

平成28年度 第2回総合教育会議資料
平成29年2月1日（水）

一部抜粋

朝明中学校移転建替基本構想 (案)

平成29年〇月

四日市市教育委員会

Ⅱ. 朝明中学校区の教育環境課題にかかる検討経緯

1. 大矢知地区における教育環境課題と解決にかかる検討経緯

1) (仮称) 大矢知中学校新設事業による検討

四日市市教育委員会では、大矢知地区における教育環境課題の解決に向けて、平成21年度から総合的、大局的観点からの検討を重ね、平成23年度からはその解決方策として、朝明中学校を分離して大矢知地区へ(仮称)大矢知中学校を新設する事業「(仮称)大矢知中学校新設事業」を進めてきた。この事業では、現在の朝明中学校を分離して大矢知地区に(仮称)大矢知中学校を新設し、コミュニティ・スクールを基盤とした地域の教育力を生かしながら、義務教育9年間を見通した連携型の小中一貫教育カリキュラムの研究開発を行うこと、さらに(仮称)大矢知中学校に小中共用型施設を整備することで、大矢知興譲小学校が抱える大規模校としての課題の解決を図ろうとしてきた。

以下では、(仮称)大矢知中学校新設事業によって解決を目指した大矢知地区の教育環境課題を整理する。

< (仮称) 大矢知中学校新設事業における大矢知地区の教育環境課題 >

①人口約2万人の行政区に中学校がない

市内にある24の地区(行政区)のうち、人口が14,000人以上の地区では、その全てで地区内に中学校が立地している。しかしながら、大矢知地区は約20,000人の人口を有する地区であるものの、唯一中学校が立地しておらず、そのことに対して地区住民のなかでは不公平感や不満が根強く存在する。

②地区の中学生が地区外の4つの中学校に通学

大矢知地区内に中学校がないことによって、大矢知地区在住の生徒は他地区の4つの中学校へ分散して通学している。そのため、地区と中学校の連携による郷土教育や地域社会教育活動、また、中学校を拠点とした地域行事や活動などに支障が生じている。その結果、地区コミュニティの一体感やまちづくり、地域づくり活動における地域の団結力を弱める要因ともなっている。

③朝明中学校への遠距離自転車通学

大矢知地区の多数の生徒は朝明中学校へ通学しているが、地区から遠いため通学距離が長くなり9割を超える生徒が自転車で通っている。生徒の負担は重く、交通安全面でも課題が多い。

④朝明中学校の学校施設不足

大矢知地区の多数の生徒が通う朝明中学校は、生徒数 740 名（平成 23 年当時）の大規模校であり、体育館、運動場の配当時間や、少人数教育のための普通教室の確保が困難である。また、音楽室や美術室などの特別教室が不足している。部活動においても活動場所の確保が困難であり、活動の実施に支障が生じている。

⑤大矢知興譲小学校の施設不足

大矢知地区の小学校である大矢知興譲小学校は、児童数 834 名（平成 23 年当時）の大規模校であり、運動場などの学校用地の不足、普通教室の不足の課題がある。

IV. 朝明中学校及び近隣校の生徒数の推計

1. 通学区域の想定

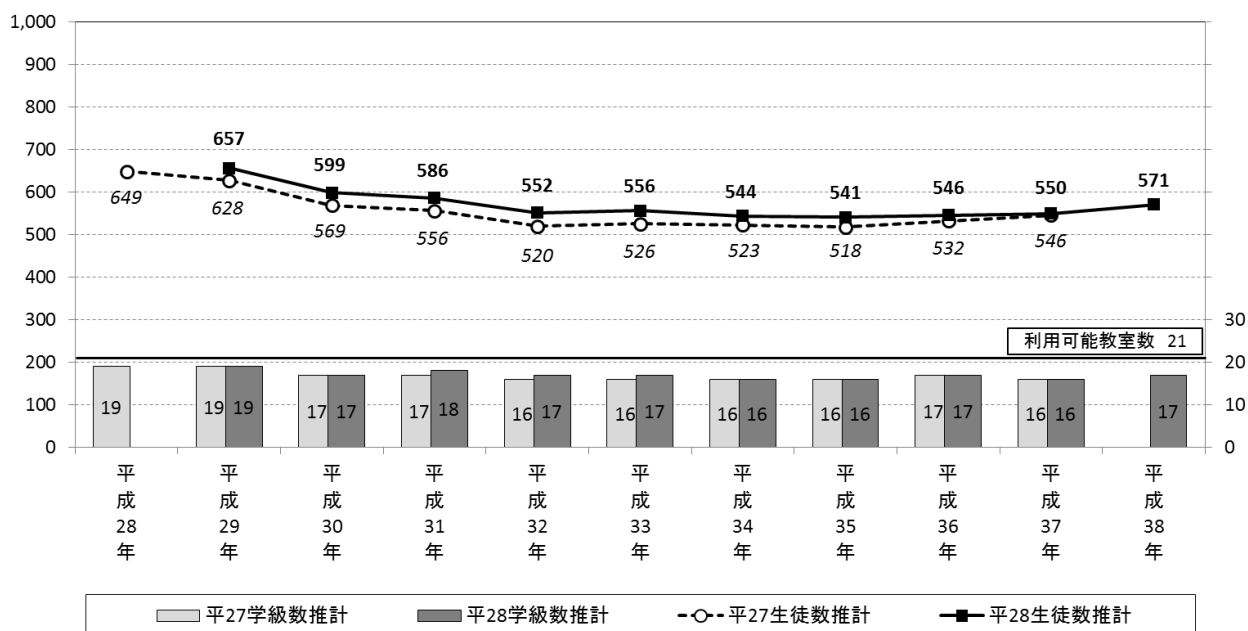


2. 朝明中学校区の小中学校に通学する児童生徒数の見込み

○朝明中学校区内児童・生徒数及び学級数推計

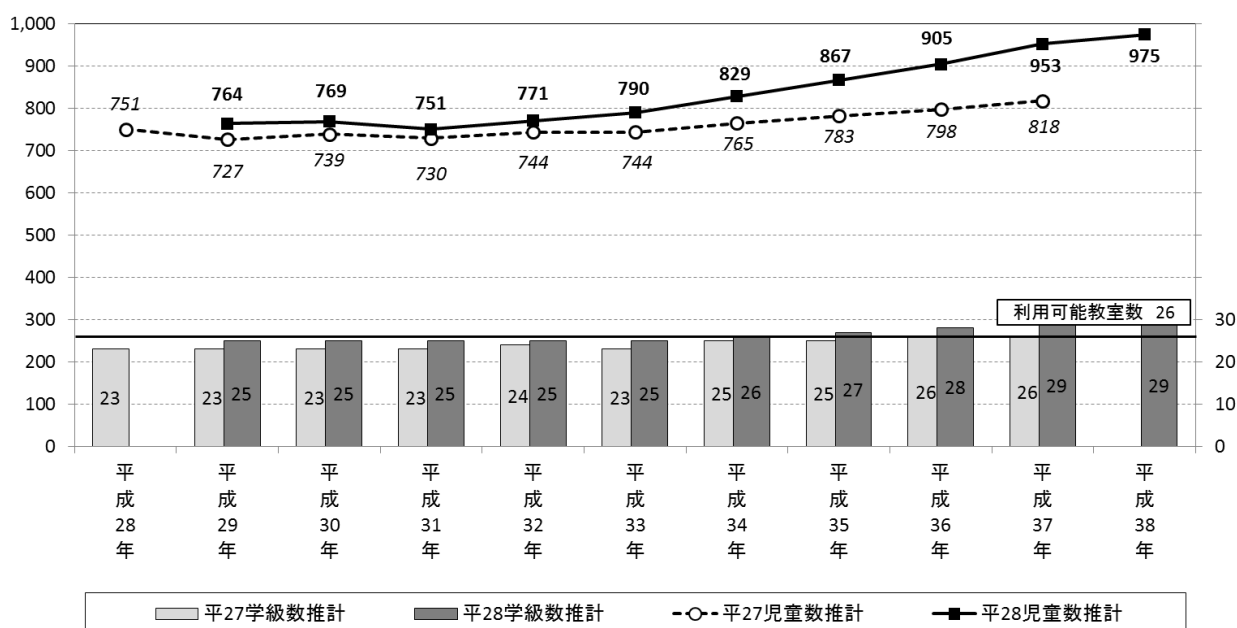
(平成 27 年度推計・平成 28 年度推計値比較)

(1) 朝明中学校



上記の推計は、概ね 550 人～600 人で推移するものの、平成 35～36 年度以降は増加傾向となっており、大矢知興譲小学校の児童数の増加の影響もあり、この後 600 人を超える生徒数となることが予想される。

(2) 大矢知興譲小学校



大矢知興讓小学校の児童数は、いずれの推計においても平成 32 年度以降増加の一途をたどると予想されている。特に、平成 28 年度推計においては増加傾向が顕著であり、将来的に児童数は 900 人を超え、普通教室数が不足することが予想されている。その原因としては、大矢知地区では宅地開発の動向が著しく、特に 0～2 歳児の増加が顕著であることが考えられる。

児童数の増加に伴い、平成 35 年度以降は普通教室数の不足が予想され、特別教室を普通教室に転用することによる教室数の確保などの対応が必要となる。

<参考>

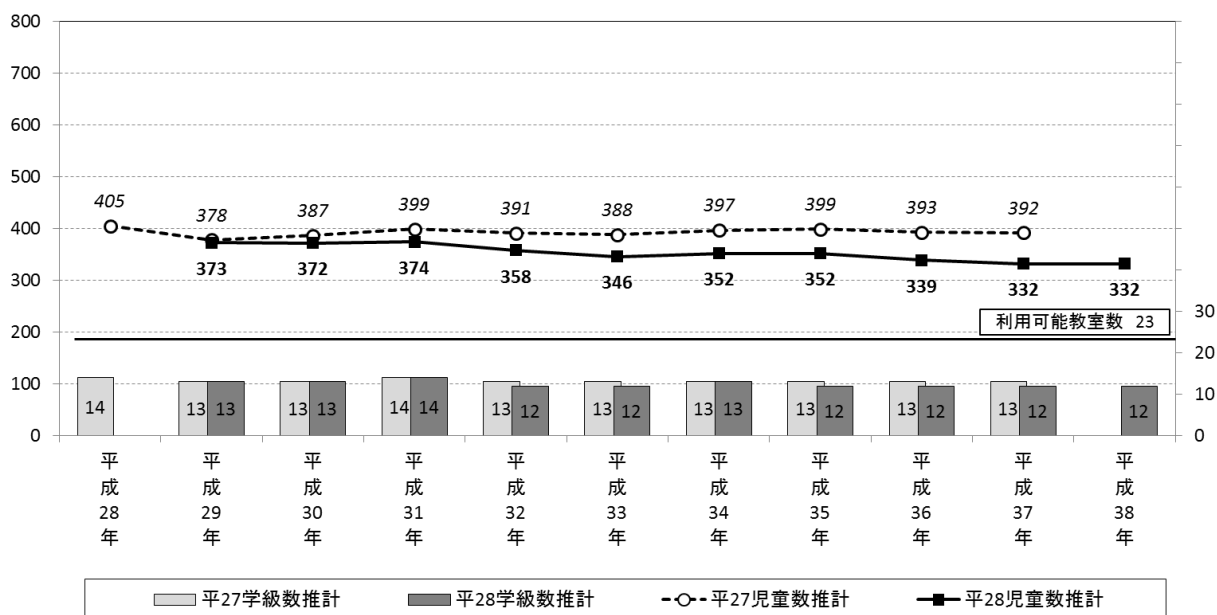
○大矢知興讓小学校区内の宅地開発面積 (H23～H27) …67028.24 m² (市内で 2 番目に多い)

○大矢知興讓小学校区内の 0 歳～14 歳 (中学 3 年生) の居住者数 (H28.4.4 現在)

(単位：人)

	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
大矢知興讓	227	207	192	152	158	153	151	155	150	158	135	166	145	169	160

(3) 八郷小学校



八郷小学校の児童数は、350 人前後で推移し全体的には減少傾向である。また、普通教室数にも余裕がある。

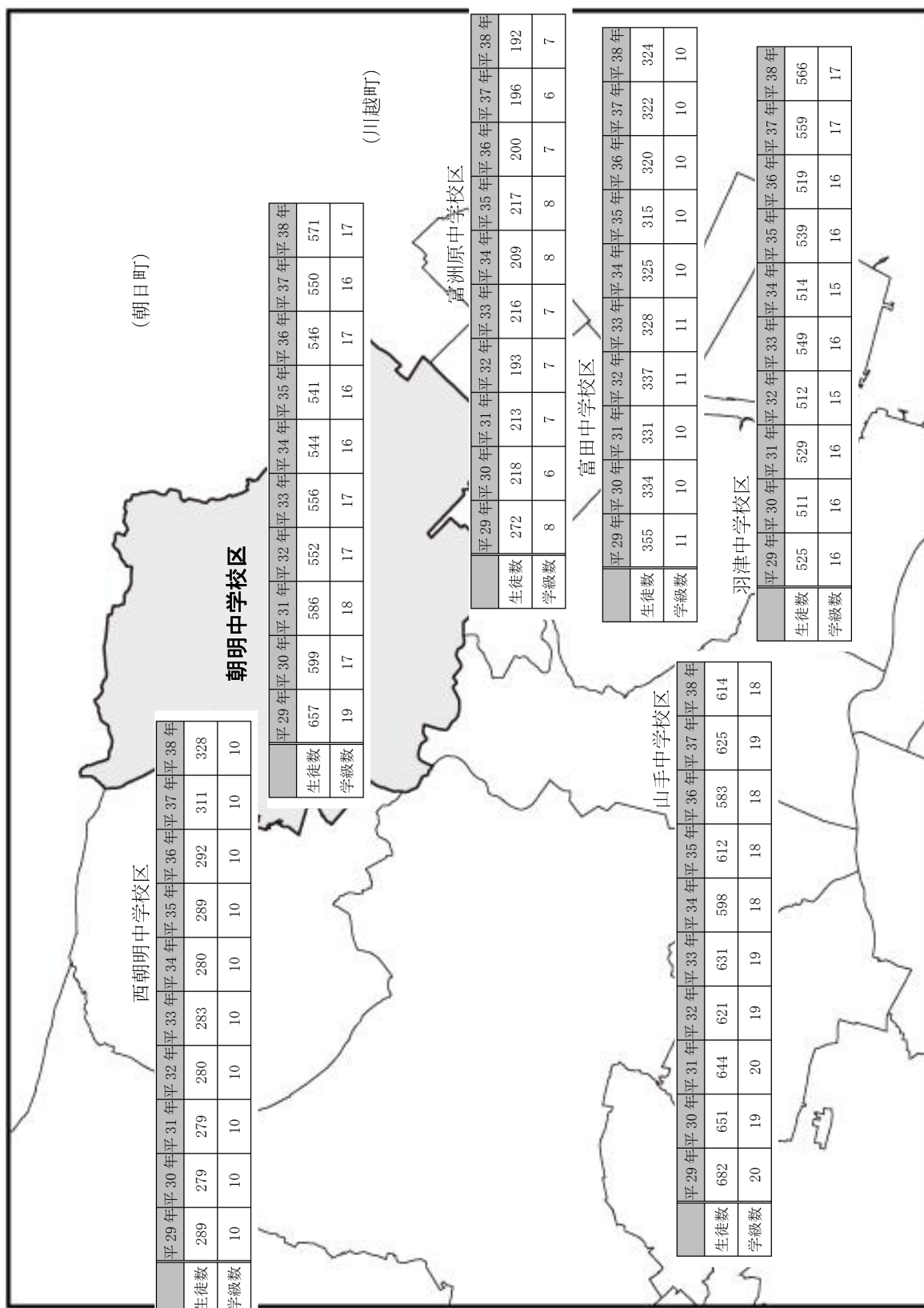
<参考>

○八郷小学校区内の 0 歳～14 歳 (中学 3 年生) の居住者数 (H28.4.4 現在)

(単位：人)

	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
八郷	62	57	55	61	72	60	58	68	66	59	68	86	79	100	101

3. 近隣中学校の生徒数の見込み



V. 解決すべき朝明中学校区の教育環境課題【まとめ】

○大矢知地区の教育環境課題

大矢知地区においては、人口約2万人の地区でありながら中学校が立地していないために、地区の中学生が地区外の4つの中学校に通学しており、その結果として地区コミュニティの一体感やまちづくり、地域づくり活動における地域の団結力を弱める要因となっている。

また、大矢知地区の多数の生徒が通う朝明中学校は、地区から遠いために、9割を超える生徒が長い通学距離を自転車で通っており、生徒の負担は重く交通安全面でも課題が多い。

さらに、朝明中学校や大矢知興譲小学校では、児童生徒数の増加による学校施設の不足が生じている。大矢知地区においては、現在、宅地開発の動向が顕著であり、特に0歳～2歳児の増加が著しく、将来的に児童生徒数はさらに増加することが見込まれる。

○朝明中学校の配置の課題

現在の朝明中学校は校区の西の端に立地しているため、全校生徒の約8割が自転車通学となっている。遠距離通学の生徒が多く、通学における負担は大きい。また、交通安全面からも、車両の往来が多い通学路においては、登下校時の自転車と自動車の接触事故などが発生している。

○朝明中学校の施設課題

【施設不足の課題】

朝明中学校では、これまでも生徒数の増加に対応するため、特別教室を普通教室に転用したほか、プレハブ増築により特別教室の確保を図ってきているものの、現状においても少人数教育のための普通教室や、音楽室や美術室などの特別教室が不足しているほか、体育館や武道場についても、部活動等に十分なスペースが確保できていない。

朝明中学校に通学する生徒数は、今後10年間は概ね550～600人程度で推移すると見られるが、大矢知興譲小学校の児童数増の影響を踏まえると、その後600人を超える生徒数となることが予想され、施設不足はさらに深刻になると考えられる。
(詳細な児童生徒数推計については、**PO～O参照**)

【校内の段差や生徒の安全面の課題】

校舎と体育館や特別教室棟、グラウンドなどとの高低差が大きく、スロープ等が設置できないため車いす等での移動が難しい。教職員や来賓用の駐車場へは昇降口を通過しなくてはならず、生徒の安全確保の面からも課題がある。



< 体育館前の階段 >



< 校舎と特別教室棟との段差 >



< 昇降口を通過する車 >

○大矢知興譲小学校の施設課題

大矢知興譲小学校は、児童数 700 人を超える大規模校であり、これまでも、南校舎 3 階の増設やプレハブ増築により普通教室や特別教室の確保を図ってきているが、南校舎 3 階の増設部分に配置した教室の一部は日照条件が悪いため、昼間に蛍光灯をつけて照度を確保している。また、校地面積が狭いため、校地外に体育館（昭和 58 年度）、プール（昭和 55 年度）を設置している。そのため、体育館へは階段式の渡り廊下を利用する必要があるほか、プールと校舎の敷地が離れているなど、円滑な学校運営に支障をきたすような施設面での課題がある。

大矢知興譲小学校区においては、平成 28 年度現在も宅地開発の動向が著しく、特に 0 歳～2 歳児の増加が顕著であり、将来的には児童数は 900 人を超えると予測されている。（※. 詳細な児童生徒数推計については、**PO～O参照**）



< 体育館へ向かうための
階段式の渡り廊下 >



< 南校舎 3 階の教室 >